

## ●ロシア（極東）

### ロシアの COVID-19 感染：2020年7月5日現在

2020年7月5日現在、ロシアにおける新型コロナウイルス（COVID-19）<sup>1</sup>の感染者数は68万1251人を記録している。ロシアでは、1月31日に最初の感染が確認され、3月19日に最初の死亡が確認された。それから約4か月が経過した7月4日に死者数は1万人を上回る1万161人にまで増加した。

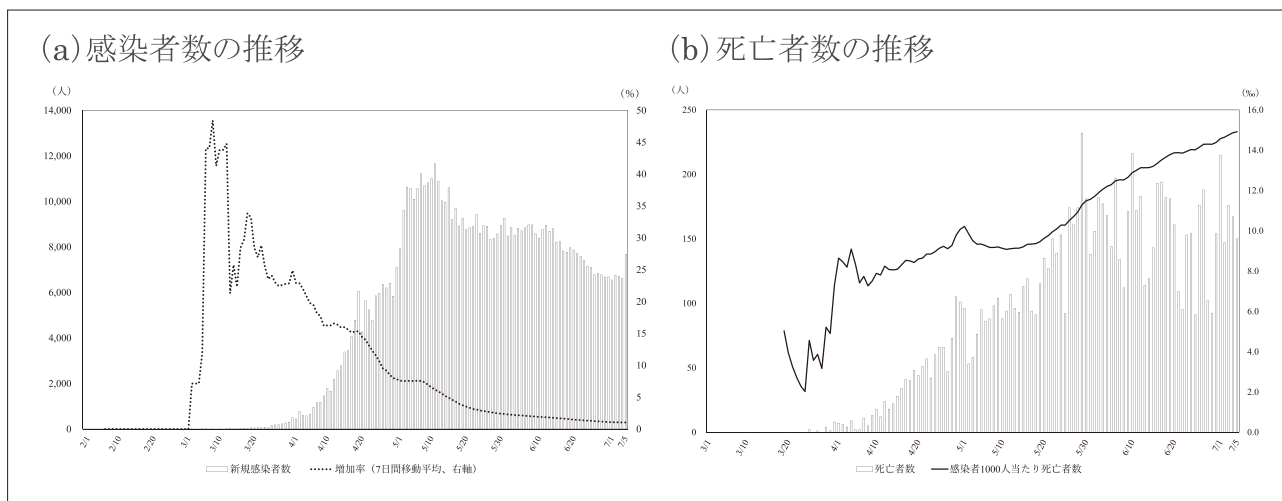
5月の初めから半ばにかけては、1日あたりの新規感染数は1万人台で推移していたが、それ以降はゆっくりと減少し、6月末以降は6千人台で推移している（図1(a)）。また、6月20日以降は、新規感

染者を上回る勢いで回復者数が増加している（7月5日は1万161人、現在までの回復者数は35万6963人で、感染者数の51.5%）。ロシアにおける感染状況は5月半ばにはピークを越え、現在は徐々に改善に向かっている。一方で、一日あたりの死者数は高止まりし、感染者数1000人当たりの死者数は遡増しており、現在の数値は14.92人になった（図1(b)）。人口100万人当たりの死者数は70人である。

地域の感染状況に目を向けると、5月初頭には、中央連邦管区に感染者数の70.5%（モスクワ市に51.8%）が集中し、それに次いで感染者数が多かったのは北西連邦管区（7.2%）であった（ERINA REPORT（PLUS）No. 154を参照）。し

かし、2か月後の現在は、シベリア連邦管区およびウラル連邦管区において感染数が増加しており、それぞれ3504人から4万5454人（13.0倍）、4341人から4万3177人（9.9倍）に増加している。中央連邦管区の感染者数の比率は53.7%（モスクワ市は33.0%）にまで低下し、感染者の地理的分布は沿ヴォルガ連邦管区11.4%、北西連邦管区8.5%、シベリア連邦管区6.7%、ウラル連邦管区6.3%となっており、分布の重心が東へシフトしている状況が見て取れる。ロシアでは、モスクワ市中心とする大都市での爆発的な感染（第1波）と、地方都市への地理的な拡大（第2波）というように理解されている。人口100万人あたりおよび感染者数1000人当たりの死亡数を見ると、ロシア全体ではそれぞれ

図1 ロシアにおける COVID-19 の状況：2020年7月5日現在



出所：筆者作成。

<sup>1</sup> この動向分析の中で用いている COVID-19 の感染状況に関する情報は以下のウェブサイトなどから得ている。ロシア情報公式ポータルサイト：<https://stopkoronavirus.pf/worldmeters>：<https://www.worldometers.info/coronavirus/>。

69人および14.9人であるが、モスクワ市およびサンクトペテルブルク市では人口100万人あたり感染者数がそれぞれ312人および249人と突出して多い。ただし、両市における感染者数1000人当たりの死亡者数はそれぞれ17.6人および52.7人と対照的である。この特異な数字が実情を反映しているのであれば、サンクトペテル

ク市は極めて深刻な状況にあるが、その正確性については慎重に検討する必要があるだろう。感染者数1000人当たりの死亡者数は、北カフカス連邦管区において22.8人と多いが、それ以外の地域では、ロシア全体の水準を下回っている。

ロシアの感染者数は、米国の約300万人、ブラジルの160万人に次いで多く、そ

れにインドの67万4312人が続いている。なお、ロシアでは積極的に検査が実施されており、検査件数は、204万5110件であり、中国と米国に次いで多い。このように感染者数でみた場合、ロシアにおける感染拡大は非常に深刻な状況にある。ただし、人口100万人あたりの感染者数および死亡者数はそれぞれ4622人（28位、

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
GDP・実質成長率 (%) <sup>(1)</sup>	4.0	1.8	0.7	▲ 2.0	0.2	1.8	2.5	1.3
固定資本投資・実質増減率 (%) <sup>(2)</sup>	6.8	0.8	▲ 1.5	▲ 10.1	▲ 0.2	4.8	5.4	1.7
鉱工業生産高・実質増減率 (%) <sup>(3)</sup>	3.4	0.4	2.5	0.2	1.8	3.7	3.5	2.3
輸送貨物量・実質増減率 (%) <sup>(2)</sup>	2.9	0.6	▲ 0.1	0.6	1.8	5.6	2.7	0.6
小売売上高・実質増減率 (%) <sup>(2)</sup>	6.3	3.9	2.7	▲ 10.0	▲ 4.8	1.3	2.8	1.9
実質貨幣可処分所得・増減率 <sup>(2)</sup>	4.6	4.0	▲ 1.2	▲ 2.4	▲ 4.5	▲ 0.5	0.1	1.0
消費者物価 (%) <sup>(4)</sup>	6.6	6.5	11.4	12.9	5.4	2.5	4.3	3.0
輸出額 (10億ドル、通関データ) <sup>(5)</sup>	524.7	527.3	497.8	343.5	285.8	357.8	449.6	424.4
輸入額 (10億ドル、通関データ) <sup>(5)</sup>	317.2	315.0	286.7	182.7	182.3	227.5	238.5	244.3
為替相場 (ドル/ルーブル) <sup>(6)</sup>	30.4	32.7	56.3	72.9	60.7	57.6	69.5	61.9
原油価格 (ブレント、ドル/バレル) <sup>(7)</sup>	111.6	108.6	99.0	52.3	43.6	54.1	71.3	64.4

	2018				2019				2020
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
GDP・実質成長率 (%) <sup>(1)</sup>	2.2	2.6	2.5	2.8	0.4	1.1	1.5	2.1	1.6
固定資本投資・実質増減率 (%) <sup>(2)</sup>	6.2	5.5	10.4	1.9	0.9	1.2	1.7	2.3	1.2
鉱工業生産高・実質増減率 (%) <sup>(3)</sup>	2.9	2.9	2.9	5.4	2.4	2.0	3.1	1.8	1.5
輸送貨物量・実質増減率 (%) <sup>(2)</sup>	2.6	3.3	2.7	2.2	2.3	1.4	▲ 0.3	▲ 0.8	▲ 3.8
小売売上高・実質増減率 (%) <sup>(2)</sup>	2.7	3.1	2.7	2.8	2.3	1.9	1.2	2.1	4.4
実質貨幣可処分所得・増減率 <sup>(2)</sup>	1.0	0.2	▲ 0.0	▲ 0.8	▲ 1.7	1.0	2.9	1.8	▲ 0.2
消費者物価 (%) <sup>(4)</sup>	2.2	2.4	3.0	3.9	5.2	5.0	4.3	3.4	2.4
輸出額 (10億ドル、通関データ) <sup>(5)</sup>	103.0	110.2	112.2	124.2	104.8	101.9	104.3	113.4	89.5
輸入額 (10億ドル、通関データ) <sup>(5)</sup>	54.7	61.0	60.1	62.6	53.4	59.6	62.8	68.5	53.4
為替相場 (ドル/ルーブル) <sup>(6)</sup>	56.4	62.5	65.5	67.3	65.5	64.3	64.8	63.3	69.3
原油価格 (ブレント、ドル/バレル) <sup>(7)</sup>	66.8	74.5	75.2	67.7	63.2	68.9	61.9	63.4	50.4

	2018					2019					2020				
	1月	2月	3月	4月	5月	1月	2月	3月	4月	5月	1月	2月	3月	4月	5月
鉱工業生産高・実質増減率 (%) <sup>(3)</sup>	2.7	3.2	2.7	3.2	3.5	2.0	3.6	1.8	4.1	▲ 0.1	1.1	3.3	0.3	▲ 6.6	▲ 9.6
輸送貨物量・実質増減率 (%) <sup>(2)</sup>	1.3	2.2	4.4	4.9	3.0	2.4	1.8	2.5	2.6	1.0	▲ 3.8	▲ 0.4	▲ 6.7	▲ 5.8	▲ 9.5
小売売上高・実質増減率 (%) <sup>(2)</sup>	3.0	2.1	3.0	3.2	2.9	2.2	2.3	2.4	2.0	1.9	2.7	4.7	5.7	▲ 23.2	▲ 19.2
実質貨幣可処分所得・増減率 <sup>(2)</sup>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
消費者物価 (%) <sup>(4)</sup>	0.3	0.2	0.3	0.4	0.4	1.0	0.4	0.3	0.3	0.3	0.4	0.3	0.5	0.8	0.3
輸出額 (10億ドル、通関データ) <sup>(5)</sup>	34.0	32.0	37.0	36.5	36.9	32.4	35.2	37.2	36.6	32.7	30.9	28.5	30.1	23.7	-
輸入額 (10億ドル、通関データ) <sup>(5)</sup>	15.6	18.4	20.7	19.9	20.6	15.6	17.6	20.2	21.0	19.2	16.1	17.9	19.5	16.6	-
為替相場 (ドル/ルーブル) <sup>(6)</sup>	56.3	55.7	57.3	62.0	62.6	66.1	65.8	64.7	64.7	65.1	63.0	67.0	77.7	73.7	70.8
原油価格 (ブレント、ドル/バレル) <sup>(7)</sup>	69.1	65.3	66.0	72.1	77.0	59.4	64.0	66.1	71.2	71.3	63.7	55.7	32.0	18.4	29.4

(1) 年次成長率は2020年4月1日更新値 (ロススタット・ウェブサイト) である。四半期別成長率は2020年6月18日更新値である。

(2) 『ロシア短期経済指標 (2020年5月)』(2020年7月3日) の数値である。

(3) 2013年までの数値は全ロシア経済活動分類 (OKVED) ・第1.1版である。2014年以降の数値はOKVED ・第2版の産業部門分類に基づく。年次データおよび四半期・月次データはともに『ロシア短期経済指標 (2020年5月)』(2020年7月3日) の数値である。

(4) ロススタットウェブサイト掲載値。年次データは前年12月比 (2020年6月8日更新値)、四半期データは対前年同期比 (2020年4月8日更新値)、月次データは前月末比 (2020年6月8日更新値) の増減率である。

(5) UISISデータ (2020年3月5日更新値) および『ロシア社会経済情勢 (2020年5月)』。

(6) 『ロシア短期経済指標 (2020年1月)』(2020年3月5日)。年次・月次データは、期末の数値。四半期は3か月平均値。

(7) スポット価格。四半期データは、月次データの平均値。2019年の数値は月次データの平均値。アメリカ合衆国エネルギー省 (2020年7月1日更新値)。

(出所) ロシア連邦国家統計庁 (ロススタット) ウェブサイト最新値; 『ロシア短期経済指標 (2020年5月号)』(ロシア連邦国家統計庁); 『ロシア社会経済情勢 (2020年5月号)』(ロシア連邦国家統計庁); 省庁間統一情報統計システム (UISISデータベース)。

世界平均は1,461人) および69人(42位、世界平均68.5人)であり、最悪とまでは言えない。

### 自粛体制下のロシア経済の状況

ロシアの2020年第1四半期の対前年同期比 GDP 実質成長率は1.6% 増であった。第2四半期に関する統計は今のところ発表されていないが、ロシア経済発展省の「2020年5月経済活動概観」(2020年6月18日)によると、4月および5月の成長率はそれぞれ12.0%減および10.9%減となり、1-5月で3.7%減となると予測されている。これはコロナ感染拡大を防止するためにとられた非労働日体制(ノーワーキングデー)が実施されたことに関係している。この制限措置の実施に伴い、失業率は3月の4.7%(第1四半期は4.6%)から、4月

5.8%、5月6.1%へと上昇した。また、3-5月の生産活動の動向を見ていくと、建設部門は0.1%増、2.3%減、3.1%減、鉱工業は0.3%増、6.6%減、9.6%減(製造業は2.6%増、10.0%減、7.2%減、採掘部門は0.0%増、3.2%減、13.5%減)と推移している。小売業は非食料品の販売が急激に縮小したことによって、取引高が3月の5.7%増から4月23.2%減、5月19.2%減へと大きく縮小した。

6月以降は、自粛制限措置が解除されたことで、徐々に経済活動が回復していくものと期待されている。同省が発表している「地域の経済開放性指数」(労働者総数に占める制限部門以外の労働者数の比率)は、4月27日の71.3%から7月3日には96.9%にまで上昇しており、制限措置の緩和に伴って、特に製造業部門におけ

る生産縮小が緩やかになると予想されている。ロシア連邦消費者権利保護・福利監督庁は、3段階における自粛緩和を勧告している。第1段階は、制限付きの小型店舗の活動や外での散歩やスポーツを認める。第2段階は、制限ありで大規模商業施設の活動を認める。最後に、第3段階で、商業・サービス活動に対する面積・人数の制限が解除され、外食やホテル、娯楽施設などが認められる。ロシア経済発展省が発表している「地域経済の開放水準」(2020年7月3日)によると、17地域が第1段階、62地域が第2段階、5地域が第3段階にあり、地域における自粛緩和が進んでいる。

ERINA 調査研究部・研究主任  
志田仁完